



「確かな学力の育成」に向けて



もうすぐ二学期の終業式を迎えます。この時期に、「確かな学力育成プラン」に基づいたCAPDサイクルの「Check」を確実にを行い、3学期の指導に生かしていくことが大切です。今号では、岩手県小・中学校学習定着度状況調査の「集計・分析シート」の見方や、分析のポイントを紹介します。

岩手県小・中学校学習定着度状況調査 「集計・分析シート」の見方、分析のポイント

①小問正答率

正答率のほか、小問ごとのねらいや学習指導要領との関連、無回答数を含む児童生徒の回答の傾向が分かります。

【分析のポイント】

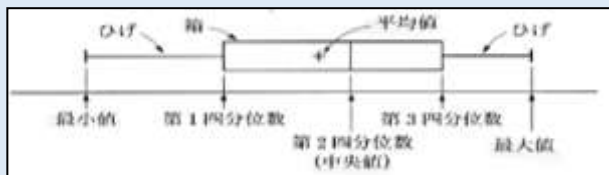
正答率が低い問題をチェックし、問題と回答の傾向を確かめることで、**児童生徒の「どこにつまずきがあるのか」「そのつまずきはなぜ生じているのか」**を知る手掛かりになります。記述の問題については、**誤答の分析を丁寧にすることが重要**です。

②箱ひげ図

集団のデータをもとに、4つの層に分けたときの分布の様子が分かります。

【箱ひげ図って何??】

データを小さい順に並べた時の、3つの区切りの値を四分位数といい、小さい方から順に、第1四分位数、第2四分位数、第3四分位数といいます。第2四分位数は中央値を表します。箱ひげ図は、これらの四分位数を、最大値、最小値とともに下の図のように表したものです。



【分析のポイント】

箱ひげ図に表された分布の傾向を知ることで、**集団の実態に応じた指導に役立てる**ことができます。最小値と最大値の差が大きい場合には、習熟度別の学習も効果的です。

③分布比較、学級比較

県の分布との比較ができます。また、複数の学級を有している場合には、色分けされている棒グラフから学級ごとの分布が分かります。

【分析のポイント】

個別最適な学びの視点からの授業改善に役立ちます。**児童生徒一人一人に対して、どのような指導が効果的であるか**を考える手掛かりになります。

④正答率比較

小問ごとに、県の平均との比較ができます。

【分析のポイント】

県の平均と比較することで、指導の成果と課題を把握する手掛かりになります。**県の平均との差が大きいものは、「改善を図りやすいもの」と捉え、課題の重点とする等して指導の改善に役立てましょう。**

⑤領域等比較

領域別、観点別の正答率が分かります。それぞれの領域、観点ごとに、県の平均正答率と比較することができます。

【分析のポイント】

課題が見られる領域や観点を知るだけでなく、**「①小問正答率」と合わせて見る**ことで、正答率が低い領域の小問を確認することができます。

⑥質問紙集計表

【分析のポイント】

正答率との関わりはもちろん、学校質問紙調査や学校独自のアンケート等の、教師側の評価と比較することで、**教師と児童生徒との意識のずれが分かり、授業改善に役立てることが**できます。

調査結果の分析は2つのアプローチで!

調査結果を分析する際には、「各教科で解決すべき課題」と「学年や教科を越えて共通する課題」の2つの側面から課題を洗い出します。「各教科で解決すべき課題」とは、例えば、算数の「基準量と小数倍から比較量を求めることができる」等の教科の専門的な課題です。それに対して、「学年や教科を越えて共通する課題」は、「(指示に従って)文章を書くこと」や「(理由を)説明すること」等の課題であり、教育課程全体で学年や教科を越えて解決を目指すべき課題です。(令和5年度学校教育指導指針P11より)

該当学年や該当教科の先生だけでなく、学年や教科を越えて、子どもたちの「つまずき」を生かした授業が展開できるように、分析結果の共有や組織的な取組の更なる推進を図っていきましょう。

